

10 フェロモン剤、ナメクジ駆除剤等

フェロモン剤

殺虫剤コード	成分名	商品名	殺虫剤コード														備考							
			ハスモンヨトウ	ミダレカクモンハマキ	リンゴコカクモンハマキ	リンゴコカクモンハマキ	チャノコカクモンハマキ	チャハマキ	コナガ	オオタバコガ	シロイチモジヨトウ	キンモンホソガ	モモシシクイ	ナシヒメシクイ	ハマキムシ類	タマナギンウワバ		ヨトウガ	モモハモグリガ	コスカシバ	ヒメコスカシバ	キクビスカシバ	スモヒメシクイ	イラクサギンウワバ
	リトルア	フェロディンSL	○																				誘引。ハスモンヨトウ加害作物栽培地帯で適用。雄成虫で適用。	
	リトルア	ヨトウコンーH	○																				交尾阻害。ハスモンヨトウ加害作物栽培地帯で適用。	
	シナンセルア	スカシバコンL																○					交尾阻害。果樹類、さくら、食用さくら(葉)で登録。	
																				○				交尾阻害。かきで登録。
	トートルリア	ハマキコンーN		○	○	○	○	○															交尾阻害。果樹類で適用。	
							○	○																交尾阻害。茶で適用。
										○														
	ダイアモルア	コナガコン							○	○													交尾阻害。コナガ及びオオタバコガの加害作物栽培地帯で適用。メーカーによって登録内容が異なるので注意する。	
	アルミゲルア・ダイアモルア	コナガコンープラス							○	○												○	交尾阻害。コナガ、オオタバコガ、ヨトウガの加害作物栽培地帯で適用。	
	ビートアーミルア	ヨトウコンーS																					交尾阻害。シロイチモジヨトウの加害作物栽培地帯で適用。	
	オリフルア	ナシヒメコン																				○	交尾阻害。すももで適用。	
		ラブストップヒメシン																					○	交尾阻害。果樹類で適用。
	アルミゲルア・ウワバルア・ダイアモルア・ビートアーミルア・リトルア	コンフューザーV	○						○	○	○											○	交尾阻害。野菜類、花き類・観葉植物、豆類(種実)、いも類で適用。	
	アリマルア・オリフルア・トートルリア・ピーチフルア	コンフューザーAA		○	○	○						○	○	○									交尾阻害。果樹類で適用。	
	オリフルア・トートルリア・ピーチフルア	コンフューザーR		○	○	○						○	○										交尾阻害。果樹類で適用。	
	オリフルア・トートルリア・ピーチフルア	コンフューザーN																				○	交尾阻害。すももで適用。	
					○	○	○	○					○	○										交尾阻害。果樹類で適用。
	オリフルア・トートルリア・ピーチフルア・ピリマルア	コンフューザーMM		○		○																○	交尾阻害。果樹類で適用。	

(1) 性フェロモン剤は、種特有のものであり、殺虫効果がないため、天敵を含む他の害虫や昆虫、動物等の生態系には影響を与えない。したがって、対象以外の害虫には、通常の防除が必要である。

(2) 成虫密度が高い場合には、十分な効果が得られないことがあるので対象害虫の発生初期(低密度時)より使用することが必要である。発生密度が高い場合は殺虫剤を散布し、密度を下げてから使用するが殺虫剤散布を併用する。また、効果の発現が遅く、目に見えて現れにくいので、対象害虫の発生状況をよく観察することが大切である。

(3) 狭い面積では十分な効果があがらないので、出来る限り広い面積で、集団的に実施する。なお、防除対象作物以外の作物が混在する場合は、なるべくそのほ場にも設置するかあるいはそのほ場の処理分を周囲のほ場に振り分け設置する。

(4) フェロモンの成分ガスは大気よりも重いいため、丘や急斜面、起伏が大きなほ場等では成分ガスの均一な分布が望めないことから、以下の条件での設置は好ましくない。

- ア 少面積ほ場 : 周囲に有効成分が流れてしまい、交尾した雌成虫が周囲から飛び込む。
- イ 崖の上のほ場 : 崖下に有効成分が流れる。
- ウ 急斜面にあるほ場 : 有効成分が下方に流れる。
- エ 風の強い地域 : 空気中の有効成分が風で吹き飛ばされる。

(5) フェロモン剤は、包装を開封すると成分が揮散するので必ず使用直前に開封し、なるべく使いきる。また、貯蔵は、密封し低温下(冷蔵庫)で保管する。